

公益社団法人 石川県言語聴覚士会

2019年度 事業報告書

1. 言語聴覚士の技能及び資質の向上に関する事業

言語聴覚士としての知識・技術を高めるための支援として、14の研修会の開催と学術集会及び他団体が開催し、日本言語聴覚士協会生涯学習の研修会では、大変好評で参加者から「続編を開催してほしい」という要望も出た。

今年度も「失語症者向け意思疎通支援者講師養成研修会」へ2名の会員を派遣・修了した会員による失語症者向け意思疎通支援指導者養成伝達研修会を行った。また、医療専門職（医師、歯科医師、看護師、理学療法士及び作業療法士等）、保健・福祉専門職（ケースワーカー、介護福祉士及び介護支援専門員等）、教育専門職及び心理専門職等と合同で、知識・技術の習得のための5つの研修会を開催した。

年度末の研修等は残念なことに「新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、2つの研修を開催中し、1つの研修を延期した。

新人育成のための研修

- ・新人オリエンテーション 2021年5月26日
場所：金沢医科大学病院（河北郡内灘町） 参加者：4名
- ・日本言語聴覚士協会生涯学習基礎講座 2019年8月18日 （事業費・会費）
①「言語聴覚療法の動向」 ②「協会の役割と機構」
場所：小松市民病院（小松市） ①参加者：3名（会員：3名）②参加者：5名（会員：5名）
内容：日本言語聴覚士協会からの最新情報や臨床における基本的な知識を得られる講座で主に新人（免許取得後1～5年）会員が参加する
- ・援助的コミュニケーション入門 2020年2月2日 （事業費・会費）
場所：石川県立中央病院（金沢市） 参加者：3名（会員：3名）講師：1名
内容：日々の臨床において、患者様やそのご家族とより一層良好な関係を築き上げていくためにはどうすればよいか。様々な面接技法を身に付け実践し、話を引き出す質問の仕方や相手の感情を受け止め言語化する方法、受容的な雰囲気を作り出しながら必要な情報を聴取するテクニックなど、具体的な事例を通して学びました。
- ・地区別症例検討会
能登地区 2019年9月1日
場所：恵寿総合病院（七尾市） 参加者：13名（会員：13名）発表者：2名
内容：「左MCA前方領域損傷によるブローカー失語と重度発語失行を呈し一症例」
「失語症を呈したベトナム人患者への関わり-評価に難渋した一例-」
金沢地区 新型コロナウイルス感染拡大防止により中止
加賀地区 2019年7月30日
場所：やわたメディカルセンター（小松市） 参加者：8名（会員：8名）発表者：1名
内容：「中等度失調性構音障害を停止、日常会話の汎化に苦慮した一症例」

技術向上のための研修

- ・石川県言語聴覚学術集会 2020年11月10日 (事業費・協会補助金)
発表者：4名
場所：金沢医科大学病院（河北郡内灘町） 参加者72名（会員：72名）
内容：一般演題発表（4演題）と「症例から学ぶ言語症状」と題して特別講演を開催しました。
- ・地域リハビリテーションリーダー養成研修会 (事業費)
①導入研修 「市町事業に関わるリハビリテーション専門職の育成研修」 2019年8月31日
場所：石川県リハビリテーションセンター（金沢市）
参加者110名（会員：12名、非会員98名）
内容：地域包括ケアが推進される中、市町事業を理解した地域支援事業で活躍できるリハビリテーション専門職の育成が課題となっています。今回は、すでに介護予防事業や地域ケア会議に参加経験のある会員から活動内容や率直な感想を報告していただきました。貴重な経験を共有し、今後の発展に活かすための意見交換が行えた。
②導入研修「地域保活ケア推進コース/介護予防推進コース」 開催延期
※新型コロナウイルス感染拡大防止による
- ・日本言語聴覚士協会生涯学習専門講座 2019年9月29日 (事業費・会費)
「原発性進行性失語の症候と経過：今日のトピックス」
場所：金沢医科大学病院（河北郡内灘町） 参加者：41名（会員：31名、非会員：10名）
内容：高次脳機能障害研究の最前線で活躍している大槻美佳先生を招き、原発性進行性失語（primary progressive aphasia、PPA）に関する最新の知見について講演頂いた。認知症を含めた変性疾患患者のリハビリテーション処方増加に伴いこれから在宅医療を含めた現場で遭遇することが増えるであろう PPA 患者をどのように理解するか、脳血管障害による失語症とはどのように違うのか、どのような評価や訓練プログラムを用いるべきなのか等学ぶことができた。
- ・日本言語聴覚士協会生涯学習ポイント対象研修会 (事業費・会費)
①「原発性進行性失語：現場の諸相」 2019年9月29日
場所：金沢医科大学（河北郡内灘町） 参加者：39名（会員：30名、非会員：9名）
内容：実際原発性進行性失語症例を通して評価や訓練、関わり方のポイントについて学びます。PPA の言語症状のみに限らず、認知症・変性疾患における高次脳機能障害全般という広い視点での関わり方について学べた。
- ・包括的研修システム ベーシックコース研修会 2019年7月28日 (事業費・会費)
①「職種間連携」「急性期・回復期・生活期それぞれの ST の仕事とセラピスト間連携」
場所：金沢こども医療福祉センター（金沢市）
①参加者：21名（会員：21名 非会員：0名）発表者：4名
内容：「同職種連携」をテーマとしたシンポジウムで、急性期・回復期・生活期で活躍している言語聴覚士から各病期における言語聴覚士の役割を学ぶことができた。各病期の言語聴覚士が他の病期の言語聴覚士に求めている事や実際との食い違いを知ることができた。また、各病期の言語聴覚士との意見交換を通してお互いの想いが共有でき、食い違いを埋

めていくことで、県内の患者さんへ途切れのないリハビリを提供していく必要がある。

②「失語症」「言語発達障害」 開催延期

※新型コロナウイルス感染拡大防止により開催延期となった。

- ・吃音相談・研修システム体制の運営（臨床施設調査、研修会、相談・紹介システム）

2020年2月15日（事業費・会費）

「吃音のある幼児と学齢児の理解と支援」

場所：金沢こども医療福祉センター（金沢市） 参加者：20名（会員：14名、非会員：6名）

内容：金沢大学の小林宏明先生に主に小児吃音の理解と支援の基礎的な内容について講義を行った。

- ・失語症者向け意思疎通支援指導者養成伝達研修会 2020年2月11日（事業費・県補助金）

場所：恵寿総合病院（七尾市） 当事者講師：2名 参加者：9名（会員：9名）

内容：昨年に引き続き、東京で開催された失語症者向け意思疎通支援指導者養成研修に参加した会員を中心に言語聴覚士対象の伝達講習会を実施した。必須科目のうち言語聴覚士が講師となる場合に知っておいた方がよいと思われる教科と、事業の概要の理解のために「派遣事業と会話支援者の業務」について解説、伝達を行った。午後は失語症当事者を講師として迎え、模擬的に実習を行い、失語症者向け意思疎通支援事業についての考えや失語症当事者に実習協力者として参加していただき外出に関してなど意見交換を行うことができた。

- ・地域リハ塾 2019年8月17日（事業費・会費）

「ベッドとマットレスの世界～マットレスに比重を置いて」

場所：金沢福祉用具情報プラザ（金沢市） 参加者：11名（会員：5名 非会員：6名）

内容：初習者がわかるように、オークス株式会社の中島敏勝氏に講演いただきました。知っているようで知らない「マットレスの世界」を実体験した。

福井開催 2019年6月1日

「こんなSTは嫌だ」～そういわれないために～

場所：トゥモローズホームリハビリセンター坂井（福井県） 参加者：4名

富山開催 2019年11月9日

「わかりやすいプレゼンってどうすればいいの？」

場所：シルバーケア今泉（富山県） 参加者：1名

- ・石川県理学療法士会・作業療法士会、言語聴覚士会連絡会主催の研修会

「地域包括ケアとリハビリテーション」

2020年2月16日

～地域包括ケアにおけるリハビリテーションの実践報告会～

（事業費・会費）

場所：いしかわ総合スポーツセンター（金沢市）

参加者：198名（会員：18名、非会員：180名）発表者：2名

内容：地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが進められる中、リハビリテーション専門職が各市町事業に積極的に関与し、身近な地域で自立の視点を活かした地域包括ケア支援体制の構築を目指した研修会でした。特別講演では今後の診療報酬改定に向けたリハビリテーションのあり方、県における地域医療構想と医療・介護の連携をまた、地域包括ケ

アシシステムの中で参加されている9名のリハビリスタッフによる、これまでの効果的な実践報告を学びました。

他団体が開催する研修会への派遣

- ・訪問リハ・地域リーダー会議 2019年4月27日
場所：東京 参加者：1名
内容：全国から200名の参加があり、振興財団による活動報告と訪問リハビリテーションの現状の共有が行われた。グループワークでは、各地域での「地域課題」を問題点とした実務者研修も行われた。
- ・石川県リハビリテーションセンター・リハビリテーション専門職研修会 2019年7月13日
「失語症者向け意思疎通支援事業の意義と実践的取り組み紹介」
「県内における失語症者向け事業の取組紹介」
場所：石川県リハビリテーションセンター
参加者：49名（会員：21名、非会員：28名）講師：2名（発表者：1名）
内容：意思疎通（コミュニケーション）は障害の有無にかかわらず、日常生活に欠くことのできないものであり、突然、言語や聴覚に障害が起こると生活が一変してしまうことが少なくありません。また、自分の考えや思いをうまく伝えることができない、更に正確な情報を得ることができないと、社会参加にも大きな影響が生じる可能性があります。リハ専門職は、このような障害のある人のコミュニケーション能力を正確に理解した上で、日常生活や社会参加がスムーズにできるように橋渡しとなる意思疎通支援を提供していく必要があります。意思疎通支援と言えば聴覚障害者への手話通訳や要約筆記が一般的に知られていますが、新たに失語症者向け意思疎通支援事業の取り組みが始まっています。今回、失語症者向け意思疎通支援に関する県内の取り組み状況を確認し、実践の場で活かせるよう具体的な活動事例を通して、意思疎通支援について学ぶことができる研修でした。当会から県での取り組みを紹介することができた。
- ・失語症者向け意思疎通支援者講師養成研修会 2019年10月26～27日
場所：東京 参加者：2名 修了者：2名

関係団体と合同で行う研修会

- ・第18回 北陸言語聴覚学術集会(福井開催) 2019年10月20日
場所：福井県済生会病院(福井) 参加者14名(会員14名) 発表者：2名
特別講演「セッティング別のリハビリテーション栄養」
- ・訪問リハビリテーション実務者研修会
 - ①「共生社会のリハビリテーション」 2019年10月5日
 - ②「今さら聞けない！一から始める訪問リハビリテーション」 2019年10月6日場所：石川県リハビリテーションセンター（金沢市）
参加者：47名（会員：5名 非会員：42名）
（非会員：理学療法士25名 作業療法士17名）
- ・J R A T石川研修会
 - ①「石川県の災害医療体制」

「災害時 あなたは何ができますか」～発災直後編（フェーズⅠ）～ 2019年8月25日
場所：金沢医科大学病院（河北郡）参加者：54名（会員：8名 非会員：46名）

②「災害リハビリテーションの基本と実際」

「岐阜 JRAT が県行政及び他職種団体と災害時協定を締結するまでの障壁と長い道のり」
グループワーク 「避難所運営ゲーム HUG をやってみよう！」

2019年12月8日

場所：金沢医科大学病院（河北郡）参加者：40名（会員：9名 非会員：31名）

2. 県民への言語聴覚療法等に関する講座開講及び情報の普及・啓発及び支援に関する事業

ア 言語聴覚療法が医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを示し、関係団体等と連携の上、県民に対し言語聴覚の日及び2つの講座（高齢者のコミュニケーションサポート講座、お食い締め浸透実践講座）、公益社団法人化記念事業として川柳コンテストを通じて普及・啓発を行った。毎年開催される介護フェスタは台風の為開催中止となった。

県民公開講座は新型コロナウイルス感染拡大防止の対策により講座は開催中止、事業報告はHP上での報告に変更しました。

・「言語聴覚の日」のイベントを開催 2019年8月25日 （会費）

場所：イオン御経塚店（金沢市） スタッフ参加者：22名（会員：22名）

川柳投稿：公益社団法人化記念事業としてHP上でコンテスト開催し、作品集を兼ねた小誌を作成した。

来場者：川柳：56名 体験：48名 クイズ参加：66名 相談：3組

内容：今回川柳は公益社団法人化記念事業としてHP上で募集した川柳を第一次選考とし入選22作品を選出、展示し、来場者がよかったものを投票していただいた。

体験では、日常の業務で行っている訓練や検査場面で行う内容を、若干のイベント用に工夫をこらし実体験していただいた。年齢に関係なく達成感がある項目に人気があり、待ち時間ができてしまった。もう少しコースを増やす必要があり次年度の検討事項となった。クイズコーナーでは、パネルの中からマークのついた文字を見つけ出し、並び替え該当する言葉を作成して答えてもらった。低学年には少し助言が必要だったが楽しく取り組んでいただけた。

相談では小児や成人の分野で言語や飲みこみの機能、子供の発達などに関する相談コーナー設けた。

・公益社団法人化記念事業＜川柳コンテスト作品集の作成＞ （会費）

場所：2019年6月1日から7月31日までHP上で募集を行い、9月1日にHP上で結果を報告した。

募集俳句：168作品 応募者：87名（県内37名 県外50名）

表彰：1位～3位各1名 入賞19名

1位「リハビリで 減らす誤嚥に ます誤嚥」 埼玉県

2位「わぁ言えた！ ニコニコ笑顔に ママ涙」 石川県

3位「バカヤロー これだけ言えた 失語症」 千葉県

内容：初めて全国からホームページ上の応募フォームを用いて作品を募集しました。コンテスト周知期間が短かったにも関わらず、石川県内より 37 名、県外より 50 名、合計 87 名の方々より 168 点の応募をいただいた。素晴らしい作品が多く、楽しく鑑賞させていただきながら、第一次選考として入選 22 作品を選出した。その後、入選作品を 8 月 25 日に開催した「言語聴覚の日」イベント会場に掲示し、来場者による投票を集計して金（1 位）・銀（2 位）・銅賞（3 位）を決定した。全応募作品を収めた記念冊子を作成し公募者に配布した。

- ・高齢者のコミュニケーションサポート講座 2019 年 6 月 16 日 （事業費・県補助金）
場所：小松市民病院（小松市）

参加者：32 名（会員：2 名 非会員：30 名）講師：3 名 チューター：5 名
（非会員：介護士・介護職，介護支援専門員，看護師，PT，OT，ST 学生，臨床検査技師）
内容：今年度は加賀地区で開催し、認知症、難聴、構音障害、失語症についてそれぞれの障害の特徴とコミュニケーションの方法を実習を交えながら学びました。受講者のアンケートでは内容を理解でき、今後活用できるという回答が多くありました。

- ・令和元年度いしかわ介護フェスタへのブース出展 開催中止

※台風の為開催中止となった。

- ・『お食い締め浸透実践講座』 2019 年 9 月 22 日 （事業費）
場所：セントラルメディカル本社ビル（金沢市）

参加者：30 名（会員：11 名 非会員：19 名）講師：1 名
（非会員：介護士・介護職，栄養士，看護師，臨床検査技師，県外 ST）
内容：対象者に合った嚥下食の設定の仕方や、ランクアップ・ランクダウンのポイントについて、演習を通して学んだ。目の前の食事が、対象者の「口」に適合しているか判断できるよう同じ職場からグループでご参加することで、その後の職場での「フードスタディ」がより効果的に行えるように、3 人 1 組で申し込んでいただき、演習を実施した。

- ・県民公開講座（事業報告と講演会）

「新お食い締め」 開催中止

※新型コロナウイルス感染拡大防止の対策のため開催を中止した。

「事業報告」

※県民公開講座開催中止に伴い、当会 HP 上で事業報告を実施した。

内容：高齢者のためのコミュニケーションサポート講座，失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修伝達研修，失語症カフェ（金沢地区・加賀地区），川柳コンテスト作品集（公益社団法人化事業）について日時・場所・参加者・概要を報告した。

- ・失語症者向け意思疎通支援者養成事業の準備

行政及び失語症友の会との連携、失語症者の通いの場作りの検討

場所：県庁（金沢市）2019 年 8 月 30 日 県庁障害保健福祉課訪問、報告・協議

2020 年 3 月 5 日 県庁障害保健福祉課訪問、次年度打ち合わせ

- ・会のホームページの刷新・管理運営

- ・生涯別パンフレットの作成 「構音障害」を完成させ HP 上にアップした。

イ 自治体や他団体が開催する研修会、相談会及びイベントに講師を派遣し、県民に対する専門職としての支援を行った。また、失語症の方の集いの場づくりとして「失語症カフェ」を4回開催することができた（5回目は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策により開催を中止した）。

・失語症カフェ (県補助金・会費)

①2019年7月6日 場所：芦城クリニック（小松市）

参加者：28名（当事者12名 家族10名 ケアマネージャー1名
スタッフ[会員4名、非会員1名]）

内容：若年の当事者同士で話す様子があったり、失語症友の会の方も参加されたり、会の方と入会していない方の出会う場にもなりました。

②2019年10月26日 場所：芦城クリニック（小松市）

参加者24名（当事者11名 家族8名、スタッフ5名[会員2名・非会員3名]）

内容：失語症友の会からは会長もご出席いただきました。今回は病前に写真を趣味にしていた方2名の写真をスライドにし、当事者の方にも一部説明していただきました。

③2019年0月5日 場所：金沢フォーラス（金沢市）

参加者6名（当事者2名、スタッフ会員4名）

内容：若い方同士で話が弾み、共感されることも多く、最後には就労の希望など前向きな話が出ました。

④2019年11月2日 場所：ハスネテラス（金沢市）

参加者24名（当事者12名 家族9名、スタッフ会員3名）

内容：：テーブルに分かれケーキを食べながら会話を楽しみました。

⑤2020年3月7日 場所：ハスネテラス（金沢市）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- ・石川県立看護大学講義
- ・かほく市長寿介護課 介護予防事業
- ・石川県失語症友の会例会・合同研修会
- ・石川県脳卒中リハビリテーション協会 言語リハビリ教室
- ・石川県脳卒中リハビリテーション協会話し方大会（加賀地区・能登地区）
- ・石川県ことばを育む親の会 講演及び教育相談会（加賀地区・能登地区・金沢地区）
- ・金沢市認知症カフェ
- ・特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業
- ・金沢市フレイル予防事業
- ・加賀脳卒中地域連携協議会
- ・小松市校下女性協議会
- ・石川県自閉症友の会新年会
- ・聴覚障害児の早期発見・早期療育支援体制検討会

3. 言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

- ・職能局アンケート調査

VF・VE 検査実施施設：17 施設（能登：3 施設 石川中央：8 施設 南加賀：6 施設）

VE 検査実施施設：16 施設（能登：3 施設 石川中央：8 施設 南加賀：5 施設

訪問リハ実施施設：20 施設（能登：1 施設 石川中央：15 施設 南加賀：4 施設）

- ・失語症実態調査

内容：失語症者向け意思疎通支援者養成事業の実施に向けての準備として失語症当事者、会員、地域包括支援センター職員にアンケート実施しHP上で報告した。

4. 言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

- ・石川県言語聴覚士会年報の発行 2019年5月26日

投稿者数：35名

- ・ニュースレターの発行（年4回）

発行月：6月 9月 12月 3月

5. 関係団体との連携及び協力に関する事業

- ・石川県訪問リハビリテーション連絡会 2019年5月20日

- ・石川県理学療法士会・作業療法士会、言語聴覚士会連絡会（5回）

開催日：5月10日 6月21日 8月7日 10月7日 11月26日 1月28日

内容：3士会合同の「地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業の概要」を作成し、県内での人材育成体制を整えて協力者登録を行った。県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア会議・介護予防事業に関する研修会や実践報告会の企画運営を行った。

- ・JRAT石川会議

開催日：5月23日 7月17日 8月25日 10月7日 11月6日 12月8日

内容：今年2月にJRAT石川が設立され、定期的に幹事会が開かれた。当会から災害WGのメンバー（2～3名）と勝木会長が出席。医師（日本リハ医学会北陸地方会）・PT・OT・ST・CMの5団体で構成され、事務局は金沢医科大に設置。県内のセラピストへの研修会の企画・運営や行政との繋がりづくりのための話し合いが行われた。

- ・小松市ケア推進会議 フレイル予防検討部会

開催日：2019年7月30日 2020年1月20日

内容：フレイルの定義と啓発方法、次年度事業の方向性について話し合いが行われた。

6. 福利厚生事業

- ・百万石祭り踊り流しへの参加および市民との交流 6月1日 参加者：10名

- ・会員懇親会・交流会 ①2019年5月26日 参加者：64名

②2019年6月2日 参加者：12名

- ・企業展示 ①5月26日（9社） ②9月22日（3社） ③11月10日（7社）

④3月21日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の対策により開催中止

7. 組織の運営・管理

- ・定時社員総会 2019年5月26日

場所：金沢医科大学病院

出席者：161名（委任状：63名含む）

・理事会 5月12日 5月26日 9月8日 11月17日 1月19日 2月24日 3月22日

・局・WGミーティング 適宜

※（財源）の表記について

会費：公益社団法人 石川県言語聴覚士会会費

事業費：研修事業収入

県補助金：2019年度石川県高度・専門医療人材養成支援事業補助金

協会補助金：日本言語聴覚士協会補助金